

10 番 遠 藤

受付番号第3号、質問議員10番、遠藤和秀。

件名「第6次総合計画の実現に向けて」。

令和6年度から令和15年度までを計画期間とする、山北町第6次総合計画（以降、総合計画と言う）が策定され、当町が目指す10年後の将来像が「みんなでつくる ところ豊かに暮らせるまち やまきた」と定められた。

総合計画の策定に当たっては、審議会から「地域課題の解決には、国や県へ積極的な働きかけを行うとともに、周辺市町村や町民、民間事業者や各種団体など関係機関との連携強化に努めていただきたい」など、5項目にわたる意見を付された答申がされている。

総合計画は、地方自治体における行政運営の最上位計画であり、全ての住民や事業者、行政が行動するための基本的な指針であることから、計画がスタートして1年が経過したところで、以下の質問をする。

1、東山北1000まちづくり基本計画に示されている「みずかみテラス」近隣土地利用計画の進捗状況は。

2、酒匂川左岸側の道路における整備の進捗状況は。

3、国が推進している脱炭素社会に向けた取組に対し、町はどのように対応していくのか。

4、総合計画の進捗管理は非常に重要であり、継続的な評価・検証の実施に努めるよう審議会からも求められているが、どのように管理しているのか。

以上。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、遠藤和秀議員から「第6次総合計画の実現に向けて」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「東山北1000まちづくり基本計画に示されている「みずかみテラス」近隣土地利用計画の進捗状況は」についてであります。が、水上地区の土地利用につきましては、地権者で組織する水上地区土地利用研究会と様々な視点で意見交換などを行いながら検討を重ねております。令和4年6月からは、向原保育園の移転や道路整備を含めた水上地区全体の土地利用計画策定に向けて、庁内関係課で構成する「水上地区土地利用推進

会議」を立ち上げ、これまでに10回の会議を開催し、検討しているところです。

現在の水上地区土地用計画の進捗状況ですが、令和5年度に水上地区全体の平面図を作成し、併せて民間事業者へ、全区域一括による民間開発の可能性について市場調査を実施いたしました。

令和6年度は、具体的な事業手法の決定に向け、他の自治体で行っている先進事例を参考に、土地の購入や民間参入の条件、全体の土地利用計画などについて、再度民間事業者へヒアリングを行い、現在、水上地区土地利用推進会議で、事業手法について検討しているところです。その経過については、随時、水上地区土地利用研究会へ報告し、情報共有を図っております。

今後は、新東名高速道路工事が終了し、宿舍等が撤去される予定の令和10年度に合わせ事業に着手できるよう、できるだけ早い時期に整備計画を定め、水上地区土地利用研究会とも連携を図りながら進めていきたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「酒匂川左岸側の道路における整備の進捗状況は」についてであります。酒匂川左岸側を通る茱萸ノ木松原先線については現在、ぐみの木近隣公園から山北高校南側の村雨松原先線の終点までを町道として認定しており、整備も進めております。

進捗状況といたしましては、令和2年度に山北高校南側約220メートルの整備が完了し、尾先地区側の未整備区間約410メートルについて、県と河川法に基づく許可に向けた協議を最優先で進めているところでございます。現在、県西土木事務所との協議を進めており、細部について調整を図った後に、県庁の担当部局との協議に進む予定となっております。

町の管理道路となっております、山北高校南側から松田町との境界へ至る道路につきましては、松田町と接続箇所の調整を進めており、完了した後に町道認定及び供用開始に向けた整備に着手してまいります。

次に、3点目の御質問の「国が推進している脱炭素社会に向けた取組に対し、町はどのように対応していくのか」についてであります。国では、2050年までに温室効果ガスの排出を2013年度と比べてゼロにするカーボンニュートラルを目指すことが宣言され、2030年においては46%に削減すること、

さらに50%の高みに挑戦していくことが表明されています。

本町では現在「山北町第3次環境基本計画」の策定作業を行っており、国のカーボンニュートラルの実現に向けた動向や、県の地球温暖化対策計画の内容などを踏まえた効果的な脱炭素施策を検討しております。

令和5年度に実施した「山北町地域再生可能エネルギー導入目標策定支援業務」報告書における温室効果ガスの発生源分析では、化石燃料由来は主に製造業や自動車から、電気由来のものについては家庭部門となっております。

また、温室効果ガスの削減に向けては、森林整備等による吸収源による効果も大いに期待されると示されております。さらに、再生可能エネルギーの導入については、太陽光発電のポテンシャルが一番高く、次に風力・水力発電が有効であります。

こうしたことを踏まえ、国が推進する脱炭素社会の実現に向けては、行政・事業者・住民が一体となって、気候変動への対応として、温室効果ガスのさらなる削減に向けて積極的に取り組んでいくことが大変重要であります。

第6次総合計画で「地球温暖化防止対策」「再生可能エネルギーの導入」を推進していくことを施策として掲げており、本基本計画も「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく「地方公共団体実行計画（区域施策編）」を包含する計画として位置づけています。

今後は、役場の業務全般を対象とする「地方公共団体実行計画（事務事業編）」の改定と併せて、基本計画の実現に向けた戦略や具体の施策を打ち出す新たな実行計画を策定した上で、実効性のある取組を実施してまいります。

次に、4点目の御質問の「総合計画の進捗管理は非常に重要であり、継続的な評価・検証の実施に努めるよう審議会からも求められているが、どのように管理しているのか」についてであります。町では、第5次総合計画から町民が見ても分かりやすい計画とするために、基本構想と基本計画の2層構造として策定し、基本計画の中に主な事業のスケジュールや指標を定め、毎年度、予算編成時に進行管理・事業評価を行ってきました。

しかしながら、昨今社会情勢はこれまでにないスピードで大きく変化し、行政や住民生活を取り巻く環境は短いスパンで変化を繰り返していることから、行政運営においても柔軟性や機動性を重視することが求められています。

そのような中、令和6年度からスタートした第6次総合計画の目指す町の将来像「みんなでつくる　こころ豊かに暮らせるまち　やまきた」を実現するために、新たな手法により、総合計画に位置づけられた施策や事業の評価検証を行い、住民への説明責任を果たすとともに、行政内部においても、課の枠組みを超えて進捗状況や推進に当たっての課題などを共有し、全庁一丸となって計画した取組を推進していくことが重要であると考えております。

このため、新たに第6次総合計画における評価検証の手法を取り入れ、基本構想の重点プロジェクトに位置づけられた施策・事業及び基本計画において指標が定められている事業について実施していきます。毎年度、各課において作成した評価検証シートにより、山北町総合計画策定推進会議において内部評価を実施し、その結果を町ホームページなどにより、町民をはじめ広く公表してまいりたいと考えております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 じゃあ二の矢のほうをちょっと進めさせていただきます。

先ほどの御答弁にありましたが、事業者との打合せってことで、どのような業者とヒアリングをしているのかお伺いしたいです。

議 長 定住対策課長。

定 住 対 策 課 長 こちらヒアリングに関しましては、様々な業種の方から意見を伺いたいというところを考えまして、不動産関係、それと開発の事業者、また、住宅のこちら建設にかかってきますのでそういうハウスメーカー、それと融資の関係もありますので金融機関、そのような業種とヒアリングを行いました。数なんですけども、令和5年度には5社、令和6年度に関しましては8社の企業とヒアリングのほうさせていただいております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 多数の業者とヒアリングしてる、なかなか多いんじゃないかなと思う。だから、このままどんどん続けていってもらいたいと思います。

次に、新東名の高速道路の工事舎、事務所の跡地、もう少し具体的なスケジュールを詳しく聞きたいです。

議 長 定住対策課長。

定 住 対 策 課 長 今、現在も年度ごとの具体的なスケジュールまでちょっと確定はしておら

ないんですけども、町長の答弁にもございましたけども、令和10年度、こちらで今、新東名の道路工事の利用していた宿舍等の撤去が予定されておりますので、撤去が終わりましたらすぐ事業が開始できるような形で今進めていきたいというふうに考えております。来年度は、水上地区の土地利用の基本構想、そちらのほうを取りまとめていきたいというふうに考えておりまして、併せて土地の評価額について、当初予算のほうに不動産鑑定に係る委託の費用、そちらを計上させていただいているような状況になっております。

また、土地利用基本構想がまとまり次第、地権者会で組織されてます水上地区の土地利用研究会、そちらのほうにもお諮りしまして、早急に整備計画のほうを作成していきたいというふうに考えております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 水上地区は農地と宅地と2か所あるんですね。地権者との協議が難しいと思うので、計画予定の土地を全て町で一旦借り上げ、または買上げして、町が計画書を作り、民間業者や地権者と協議を進めてはどうかと思うが、伺いたい。

議 長 定住対策課長。

定 住 対 策 課 長 こちらも、もともと民間事業者のほうの開発を誘導していくということで始まっていたんですけども、5年度6年度に行いました事業者へのヒアリングの中で、やっぱり事業者から、こちら4万平米ほど広大な土地ありますので、こちらを一括してやるのはなかなかちょっと難しいというようなお話と、また、土地の購入に関しましても、町のほうで一括して買っていただければ参加の可能性はあるというような意見を多くいただきましたので、遠藤議員が言われましたこちらの手法につきましても、今現在町の中で行っている土地利用推進会議、こちらの中で整備手法の一つの選択肢の中の一つとして一応考えながら、今検討をさせていただいているところでございます。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 答弁書にもありましたけど、これまでに10回程度地権者と協議をしている、会議をしてるとありましたが、地権者の人に聞きますと、計画が急速に知りたいと常々言われてまして、地権者との協議を早急に求める声が上がっているので、町長、早急に対応していただきたいと思うのですが、どうでしょう

か。

議

長

町長。

町

長

当然地権者の方といろいろな協議を今までもずっとしておりますので、そういうようなキャッチボールをなるべく早く我々としても出していきたいというふうには思うんですけども、一番のネックになるのは、やはり土地を全部買ってほしいということですので、それに対応するにはやはり金額の問題が一番ネックになるのではないかなというふうに、仮にそこに数万円の差があっても、広いですから大変な金額になりますので、そういったことがやはり一つは問題になるのではないかなというふうに思っております。

議

長

遠藤和秀議員。

10 番 遠

藤

以前より、向原幼稚園の移転を伺っているが、向原幼稚園の移転に際し、町内の保育園、幼稚園、こども園の一本化について、どのような考えか伺いたいです。

議

長

町長。

町

長

以前から、学校統廃合でいろいろ三保であるとか清水であるとか、三保の幼稚園も行いましたけれども、やはり保護者の御意見というのが一番重要になるのかなというふうに思っております。やはり新しいところに入りたいのか近くがいいのか、皆さん保護者の方、様々だというふうに思っておりますので、保護者の意見を聞きながら、実際にそれが全員が賛成ということはないと思いますけど、仮に7割8割の方が一本化を目指すのであれば、そういったような設計も考えていかなければいけないというふうに思いますけども、今までの経験からすると、三つをいきなり1個にするというのはハードルが相当高くて、やはり実務的にはどこかが仮に一緒になったほうが良いというようなことで、もう一つが後からというふうなのが実務的には考えられるのではないかなというふうに思っております。

議

長

遠藤和秀議員。

10 番 遠

藤

まだ少し、土地利用するのに時間もまだ、期間がまだ長いと思うんですよ。その辺で今から考えていただいて、一つになれば町の経費節減にもつながると思いますので、ぜひそのような形でよろしく願いしたいと考えてます。

東山北1000まちづくり基本計画の本計画で、商業施設の誘致によるさらなる利便性向上が掲げられていますが、具体的にどのような施策や計画が進められているのか、詳しく説明をいただきたい。

議 長 定住対策課長。

定 住 対 策 課 長 現在、商業施設に関しましては、具体的な進出企業等の誘致計画というの  
はございません。ですけれども、今県道沿いには、そこを利用できるような可能性のある土地がまだいくつかございますので、そういうような地権者の方、  
また進出を予定している企業等が相談がございましたら、定住だけではなくて、  
いろんな関係する部署と連携を図りながら、生活の利便性の向上に向けて  
取り組みたいというふうには考えております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 それでは、その関連なんですけど、東山北1000計画以外に、町全体として  
は商業施設の誘致は何か施策を考えているのか、伺いたいです。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 山北町において、事業所の誘致というのは特段現状でやっている事例ござ  
いませんが、もしもそういった感じの御相談などがありましたら、関係部署  
並びに商工会などとも連携しながら対応を考えさせていただきたいと思いま  
す。

以上です。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 ぜひ山北町の駅前ちょっと大分寂れてきてますので、そのようなことを気  
遣っていただき、ぜひ進めていただきたいと思います。

それと、この間向原の会合のときに、町長から何かコインランドリーの話  
がちよっと出たんですけど、その辺をちよっともう一度詳しく教えていただ  
ければなと思ひまして。

議 長 町長。

町 長 以前から小田百さんのところで、さらにいろいろな施設を考えているとい  
うようなことで、いろいろな制約があったわけですけども、どうやらその制  
約がどうにか県のほうで取れたというようなことなんです、その中で一番初  
めに考えてたコインランドリーというのが、紆余曲折があったんですけど、

やるというような返事を小田百さんのほうから聞いておりますんで、ぜひ実現すれば皆さんの生活にまた少し便利になるんじゃないかなというふうに思ってますんで、実際どうなるかはちょっとまだあれなんですけど、一応私は、何回かの中で専務さんのほうからそういうような返事をいただいておりますんで、まあできるんじゃないかというふうに期待しております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 この間ちょっとスーパーへ行ったら、もう大部分木を伐採してるんですよね。

議 長 遠藤議員、向原、1000計画とは違う話かと思いますが。

10 番 遠 藤 じゃそれはそれで分かりました。

じゃあ、次に、2番のほうに移ります。

令和6年1月に能登半島に大地震が発生し、同年8月には神奈川県西部地区にも震度5弱の地震が発生した。関東地域においても、いつ大地震が発生してもおかしくない状況です。

大規模な地震が発生した際。国道246や東名高速が渋滞や通行止めになる可能性が高く、緊急輸送や救護活動に深刻な影響を及ぼすと懸念される。このような中、酒匂川左岸道路は、緊急車両の迂回路として極めて重要な役割を果たすと考え。この道路の必要性について、改めて詳細を伺いたい。

議 長 都市整備課長。

都 市 整 備 課 長 酒匂川の左岸道路につきましては、もう以前から山北町と松田町を結ぶ道路ということで、県と調整しながら進めておるんですけども、今おっしゃるように、災害時には迂回路といいますか、緊急時の、災害のときにどっちが行っちゃうか分かんないような状況もありますけども、そういったときの代替ルートじゃないですけども、迂回できるルートとして考えてもおりますし、お互いの幹線道路、一番の幹線道路は当然246なんですけども、それを補完するような道路という位置づけで整備のほうを進めるよう考えております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 酒匂川左岸道路は緊急時だけではなく、近隣地区との交流促進や他町からの買物客の増加により、まちの活性化や経済効果にもつながると考える。特

に大型スーパーや薬局、家庭用品、ＤＩＹ用品、園芸用品などの購入が高ま  
ると思う。早急な整備が必要と考える。

そこで、町長に伺うが、町との協議について、具体的にどのような進展が  
あるのか伺いたい。

議 長 町長。

町 長 酒匂川の左岸については、今都市整備課長が答えたとおり、以前から松田  
の本山町長とは話をしておりまして、総合的な要するにあれは全然お互いに  
やろうということで一致しておりますけど、実際問題として、万が一つなが  
ったときにどこから行くのかというのが、途中がクランクになっております  
んで、ああいったところがあるんで、やはり松田としてはそのところがま  
だ町として実際に決定してないというふうに思いますんで、その辺のほうは  
山北の問題じゃなくて松田の問題だというふうに思いますんで、それらはこ  
れからも丁寧に協議を進めていきたいというふうに考えております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 ぜひ早急に進めていっていただきたいと思います。

次に、令和６年度予算特別委員会において、茱萸ノ木松原線は北側の田畑  
を用地買収する予定かの質問に対し、田畑を取得する予定だと回答があっ  
た。その後、現在までどの程度の割合で用地取得が進んだのか聞かせていた  
だきたい。

議 長 都市整備課長。

都 市 整 備 課 長 用地の件に関しましては、まだ河川協議が調っておりませんので、一切  
進んでないような状況でございます。何しろ一番最初に、松田町もそうす  
けどうちのほうとしても河川協議を、許可下りないと次へ進めない状況で  
すので、最優先でそちらのほう進めているような状況でございます。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 そうしますと、総合計画構想で、茱萸ノ木松原線改良工事は2027年に完成  
を目標として掲げているが、計画どおりにあと３年ではどうでしょうか。

議 長 都市整備課長。

都 市 整 備 課 長 正直言いますと、大分厳しいような状況でございます。河川協議が、昨年  
の８月に県庁のほうへ県西土木の河川第一課の方とも一緒に行ってキャッ

チボールさせていただいて、今その回答かなり大詰めのところまで来てるような状況でございます。早ければ今月中に何とかもう一度、県庁のほうへ出向いて調整したいと思いますけども、遅くとも新年度入って早々にでも、また協議のほうを進められればなと思っております。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 そうしましたら、ぜひ早々にお願いします。

また、総合計画には、安全快適な道路環境を保つため道路パトロールを実施すると記載されている。具体的にどのような方法で調査を行っていたのか伺いたい。

議 長 都市整備課長。

都 市 整 備 課 長 道路パトロールに関しましては、うちの課の職員、私入れて8人おるんですけども、二人一組で月に2回を目標にやっております。それと、台風ですとか、もし地震等がありましたら随時回るような形を取ってございます。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 そうしますと、まだ実際にこの場所があったとか、そういう把握はしていない状態ですか。

議 長 都市整備課長。

都 市 整 備 課 長 ちょっと質問のあれ分かんないんですが、どういうあれなんだか、もう一回お願いしたいと思います。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 ごめんなさい。パトロールした上で、そういう場所があったのかどうか、実際に。安全快適な道路環境を保つにふさわしくないような場所があったのかどうか。

議 長 都市整備課長。

都 市 整 備 課 長 議員さんも御存じのように、町内やっぱり広いですから、かなり狭隘な場所で車が擦れ違えないようなところが多数ございます。それとか、何か所とかいうのは把握しておりませんけども、ここの場所はこういう状況だなというのは把握しておりますんで、あとパトロールで実施したときに、当然側溝の詰まったりとか穴が空いているようなところは早急に職員のほうで対応するなり、手に負えなければ業者さんのほうを手配して、そのよ

うな形で安全な道を確保するようには努めております。

議長 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠藤 それでは、ぜひそういう形で進めていただきたいと思います。

次に3番、脱炭素社会に関する質問させていただきます。

6年度の予算特別委員会で、今年度の再生可能エネルギーは何を目指すかと質問したところ、調査をした中で太陽光発電が当町で最もポテンシャルが高いという提案をいただいている。そのほかの水力発電や木製バイオマスもあり、これらをベースに最適な導入エリア等の検討も含め、町のグランドデザインを描いていると回答があったが、そのグランドデザインを伺いたい。

議長 長 環境課長。

環境課長 先ほど町長の御答弁にもございました、山北町の地域再生可能エネルギー導入目標策定事業、こちらのほうの報告書の中で、先ほど議員のおっしゃったポテンシャルの話とか可能性の部分では、太陽光ですとか風力水力というようなお話はいただいております。また、本年度は第3次環境基本計画の策定業務を現在行っておりまして、今パブリックコメントを実施しているところです。今後これをまとめながら、庁内会議を経て環境審議会に諮っていくという流れになっております。

御質問のグランドデザインということでございますけれども、まず総合計画のほうに再生可能エネルギーの導入の推進を掲げさせていただいておりまして、こちらを踏まえて、環境基本計画についても、気候変動への対応として再生可能エネルギーの導入と省エネ設備の充実ということを施策として掲げてございます。

基本的な考え方の中では、行政、事業者、住民と、こういった御理解、御協力の中で、できることから進めていきたいということで今整理をしているところでございます。また、具体的なものについては、令和7年度中に実施していきたいというふうに考えていますが、一つについては、地方公共団体の事務事業ということで、役場の全般の業務について、これを見直しが令和7年度を予定しております。こういった作業の中で、例えば町有施設とかにそういった再生可能エネルギーの導入、こういったところも検討していきたいというふうに考えております。また、単に行政だけでなく、民間活力

といったところも視野に入れた検討を図っていきたいというふうに考えているところでございます。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 理解いたしました。

町長にお伺いしますが、町営の太陽光発電システム、町営電力会社の設立の計画があるのかと。計画があるとしたら設置場所は休耕地なのか空き地なのか、利用活用を聞かせていただきたい。

議 長 町長。

町 長 基本的には、太陽光発電はやはり広い土地を使いますんで、山北町は、やはり山はいっぱいありますけども平らなところが非常に少ない。ですから、私は最初的时候から、やはり隣町の小山とか、そういったような平らなところがいっぱいあるところのほうが、やはり太陽光については管理していくのに管理しやすいんじゃないかというふうに思っていました。ですから、基本的には広い土地を使って太陽光をやるとするのは、山北町にとってはあまり不向きではないかということで、私としては、こういった発電システムの町営の電力会社というのは考えておりません。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 太陽光がちょっと考えてないということでお伺いしました。

県では、三保ダムの管理に伴い、毎年流木処理を行っていると聞いている。昨年、異常気象の影響で台風などによりダム上流に流木が発生している状況を踏まえると、まず県と協議した上で、その流木を活用して、まきや木質バイオマスを製造することについて伺います。この取組は、河川の清掃や災害対策にもつながると思うが、どのようにお考えか伺いたい。

議 長 環境課長。

環 境 課 長 ダムの流木でございます。企業庁では施設管理、要はダムの管理の中で流木の回収をしているということで、流木自体は今現在はそのままの状況と、あとチップに加工してということで、これを広く希望者に配布をしているということで、ほぼほぼこれが利活用図られていると。従来ですとチップにしたのを県立公園とかに敷き流したりとかってしてたんですけど、今はそういった形の利用で処理をしてる、利活用が図られているというふうに聞いてお

ります。

先ほどの木質バイオマスの利活用のご関係でございますけども、町でも再生可能エネルギー検討会議、こちらを中心に協議をさせていただいてございます。その際に、以前でも議会でも御説明させていただきましたが、町有施設の温浴施設へ導入を考えているということで検討させていただいたんですが、なかなか原材料を入手することや材料を置くストックヤード、また燃焼設備のスペースだったり、また燃焼に伴う臭いですとか、今度は燃焼した後の灰処理、こういった課題がかなりあるということで、なかなか条件整備にかなりハードルが高いということで、会議では整理をしています。

また、状況から、全て温浴施設の熱量を木質バイオマスで賄うことが、今現在ちょっと厳しいのかなということで、仮に導入する場合であれば、補助的といいますか部分的な導入というような形になるのかなということで、東京の檜原村なんかですと、重油とまきボイラーと併用してやっているというケースもございますので、そういうやり方があるのかなというふうには考えております。

いずれにしても、既存の施設、こちらの更新時期と併せて、そういったところを導入が可能かどうかというようなところを検討していくということで整理をさせていただいております。ですので、具体的な導入については、今後の検討の中でどういうふうにやっていくのかというのは検討していくというような流れになるかと思います。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 ぜひ進めていただきたいと思います。私は考えてます。

近隣自治体では、ゼロカーボンシティの宣言を行うところもあり、山北町はいまだなさそうだが宣言してはどうかの質問に対して、課長の回答で、ゼロカーボンシティ宣言はパークゴルフ場の水力発電完了に併せて行う予定と回答がありましたが、町長、いつ頃ゼロカーボンシティ宣言していただけるのか伺いたい。

議 長 町長。

町 長 課長のほうから答弁があったようなことと同じで、パークゴルフ場の水力発電が完成したところで行うのが一番ベターではないかなというふうには思

ってますけども、若干国のほうの仕様とちょっと私どもの考えは違いまして、ゼロカーボンといっても50%に下げていくということについては私は賛成でございますけども、本当にゼロにするというような、2050年までに2013年に比べてゼロにするというのはいささか乱暴ではないかなというふうに思っています。やはりCO<sub>2</sub>が邪魔というか、温暖化には確かにあれですけども、しかしなかったら、農業も水産業も全滅しちゃいますから、そういったようなむちゃくちゃな考えというのは、ちょっと私は違うんじゃないかなと個人的には思っています。

私の聞いている範囲では、太平洋側の海水の中にCO<sub>2</sub>が非常に少なくなっていると、海産物も非常にそこで被害を受けているというようなことも聞いておりますんで、やはり程々のCO<sub>2</sub>はどこに対しても必要ではないか。やはり半分ぐらいか何かを削減するのは、私は取りあえずベターではないかなと。その方向性を示すために、ゼロカーボンという表現を使っても、私は間違いではないかなというふうには思っております。

議長 遠藤和秀議員。

10 番 遠藤 先ほど答弁で、森林整備による吸収源による効果も大いに期待されると書いてありますが、その辺も山北はもう森林ばかりですから、そういうのも一つの行ける要因じゃないかとも、宣言する中にも入るんじゃないかと思いまして、そういう形で一日も早く、ちょっとゼロカーボンシティ宣言していただきたいと願っております。

そのほかの場所に水力発電の計画があるのか、その辺もちょっとお伺いしたいです。

議長 環境課長。

環境課長 水力発電でございますけど、規模としましては小水力とかマイクロ水力になるのかなというふうに考えております。

そもそも令和元年のときに、今のパークゴルフ場のところに小水力をやろうということの中で、自然エネルギー推進機構さんと協議をしながら、協定を結びながら実施した流れがございます。そのときに、候補地としましてはまだいくつか候補地がございました。

ただ、その中で優先順位としてはパークゴルフを選んできたという経緯で

ございますので、こちらのほうが今、最終の売電に向けての手続がまだちょっと終わってないということで、施設自体は完成しております。発電もできる状況ではあるんですけども、これが管理棟へ持っていく電力と、あと売電する電力というところで、電力量が多いもんですから、まずはこの売電するほうが手続が取れないと発電をできないというような状況があるものですから、それをまずは早急に進めていただくと。

先日の推進機構の山下代表が町長のところに御説明に上がった際には、年度内に何とかというお話だったんですけども、先週、なかなか電力会社のほうの許可がまだちょっと時間を要するというので、少しまだ時間がかかるようなお話もいただいています、何しろまずはパークゴルフ場の設備を完成すると。その次の段階としては、同じように川村用水沿線の中で候補地がございますので、山北、それから岸あたりで数か所、一応提案はいただいております。中には民地があったりとかもございますので、もう少しそういったところについては、次の段階としては、まずはパークゴルフ場が一旦は決着をつけて、その後にそういったところを今度順次、推進機構と調整しながらというふうな考え方で今進めているところでございます。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 ぜひ、次の候補地もどんどん今から決めていっていただきたいと思います。

それと、今年完成予定の山北町立生涯スポーツセンター、D52スポーツハウスに、なぜ太陽光の発電システムを採用しなかったのか、改めてお伺いしたい。

議 長 生涯学習課長。

生涯学習課長 生涯スポーツセンターに、なぜ太陽光発電システムを導入しなかったという御質問でございますが、理由といたしましては、建築の実施設計を行う際、太陽光発電設備を設置した場合の設置枚数、それから重量、発電量、発電量分の電気料金などを試算しております。その結果、イニシャルコストがかなり高額であったというところでございます。設備の法定耐用年数が約17年と聞いておりまして、その経費を回収するのに30年かかると試算されたため、イニシャルコストが回収できないというところでございました。

また、現在の市場では薄型のパネルもあるというのは承知しておりますが、

太陽光発電を設置することによって木造建物の耐荷重が増えて、建築工事の  
イニシャルコストもまたそこで増えることから、総トータルで建築工事費が  
上昇する懸念がございましたので、初期費用を抑えたいということで設置は  
しなかったという経緯でございます。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 今ちょっと言われましたように、屋根だけでなく壁も効率よく取れるパネ  
ルができていると聞いておりますので、今後その改装とかありましたら、ぜ  
ひそのような計画を今からしていただきたいと思います。

議 長 生涯学習課長。

生涯学習課長 新しくできるスポーツセンターは、構造材100%を県産材木材、木造の建築  
で行っておりますので、その施設の建設そのものが木材利用促進法による脱  
炭素社会へ寄与しているものと考えております。外壁で採用しております素  
材、ガルバリウム鋼板などはリサイクルが可能でございます。将来、解体と  
か改修工事などで廃棄する場合も、廃棄物としてではなく環境へのリサイク  
ルができるということで、環境への負荷というのは抑えられる施設ではない  
かと考えております。

今、遠藤議員からもおっしゃられましたように、今後というところでござ  
いますが、もっと技術開発というのがなされるのではないかと考えておりま  
す。環境に配慮した取組は継続して行わなければいけないと考えております。  
最新技術で、より性能がよくて軽量なものがございましたら設置できるかと  
いうところにつきましては、今後検討してまいりたいと考えております。

以上です。

議 長 遠藤和秀議員。

10 番 遠 藤 木造が主ということで伺いましたので、それを差し支えないように検討し  
ていただきたいと思います。

次の4番で、進捗管理はあらゆる事業に関わる重要な要素であるため、ぜ  
ひ定期的に推進管理会議を開催していただきたいと考え、これ町長にですけ  
ど、昨年、ある会合で担当課が急用で出席ができなかったときに、町民の質  
問に対して町民に理解のいく回答ができず、町民が不愉快に思っていました。  
このようなことがないように、町長、いや副長、推進管理会議にぜひ参加し

ていただきたいと思います。

最後に町長、全体的に何か一言、言ってもらえると。

議  
町

長  
町長。

第6次総合計画、できるだけこれらの進捗についても、検証を行いながら進めてまいりたいというふうに考えております。一方で、やはり柔軟に対応しなければいけないんじゃないかというところも非常に強く思っております。

今の世界を見てみますと、アメリカのトランプさん、あるいはウクライナ、ロシア、あるいはまたイスラエルなど、様々なところで様々な問題が起きています。一例で挙げると、ヨーロッパのほうで電気自動車にみんな替えるんだといって、今それがたがたになっているという状態があります。

ですから、私も基本的には第6次総合計画にのっとった形で進めたいというふうには思っておりますけど、世の中の世界の変化が大きく変わるときには、それにこだわらないで柔軟に対応していかなければ、この町の将来を、ぜひ住民の人たちと一緒に安心・安全な町をつくっていきたいと思いますので、そういったことはぜひ御理解いただければというふうに思っています。

ありがとうございます。